

登録コード	E4131900	開講年度	2026			
授業科目	教育社会学概論				担当教員	越智 康詞
英文授業名	Introduction to Sociology of Education				副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・3時限	対象学生
講義室	教育N 3 0 4 講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ					
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	個々の人間が他者や社会や他の生命・環境と深く結びついて存在していることについての理解を深め、自らを支える社会や地球環境に責任をもって行動できる（子どもたちに伝えられる）ようになる。
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	人間の基本特性（学び、協力、道具の活用）を理解し、子どもの性質や学びの構造への理解を深めるとともに、総合的な視点からカリキュラム（特に、総合的な学習や特別活動）を構想できるようになる。
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生、多文化協働					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	教育の理念や教育社会学の理論、現実の教育制度について領域横断的に、多方向からアプローチすることで、教育の現在（教師の役割）、様々な教育課題などについて、現在社会（子どもや教育を取り囲む環境条件）と関連づけながら検討することで、教育事象への理解を深めると同時に、教育事象への分析能力を磨いていく。参加者の人数により方法は若干変化するが、テキストを批判的に解読する、あるいは自分で調べ学習を行い、問題状況をその背景を含め理解するとともに、自分の考えや思考を深める。研究報告などの活動を通して、事実や根拠に基づき問題を分析できるようになる。報告やディスカッションを通して、他人の意見を的確に理解したうえで、他人が理解できるように表現できるようになる。					
(5)授業計画	第 1 回：ガイダンス（関心紹介、社会学とは何か） 第 2 回：生命・人類進化（協力と道具） 第 3 回：人間、社会、道德性の進化（組織・社会進化との相互性） 第 4 回：ことばと社会化（ことば、理性、社会性） 第 5 回：現代学校論（官僚制・職員から自己組織・省察的实践者へ） 第 6 回：現代社会と子どもの自己形成空間（家族、地域、メディア環境） 第 7 回：テクノロジーと資本主義（監視資本主義） 第 8 回：マイノリティと教育（関係論的視点へ） 第 9 回：教育と政治（市民教育） 第10回：教育の現代的課題（地球倫理への目覚め） 第11回：リフレクションの道具としての教育社会学（批判的省察） 第12回：全体の振り返り 第13回：子ども・現代社会に関する研究報告会 第14回：教育・学校に関する研究報告会・授業アンケートの実施 ＊教育実習と重なった場合は、補講期間に補講を行うか、代替課題を提出する。					
(6)成績評価の方法	・平常点4割、レポート6割（プレゼンを含む）。（受講生の人数により変更の可能性有） ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(7)成績評価の基準	レポートにおいては、（１）課題設定が適切であり、（２）問題の背景を説明し、（３）問題の構造を適切に捉えられており、（４）解決の方法を示唆し、（５）残された課題も明示されていれば、卓越している。２項目以上できれば水準にある。３項目できていればやや上にある。４項目できていればかなり上にある。試験においては、基本的事項を最低限理解していれば水準にある。応用問題まで理解していればやや上にある。自らの問題意識と結びつけ、自分の考えをも同時に展開していればかなり上にある。自らの問題意識に結びつけ、自らの考えについて説得的に論証できていれば卓越している。					
(8)事前事後学習の内容	この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。 毎回の「授業」において、しっかり復習を行うとともに、授業で扱ったテーマについて、関連する文献や事例について自ら調べ、考えを深めてください。特にレポートにおいては、各自がそれぞれの研究テーマを設定し、調査・研究した内容を、全員の前でプレゼンテーションしてもらうので、日ごろから自らの研究テーマを深める活動に取り組んでおいてください。詳細については講義の中で説明します。					
(9)履修上の注意	・他の学生の学びの障害となる行為を厳に慎むこと。 ・主体的な参加を望む。 ・対面で行う予定だが、状況によってはon-lineとなる可能性もある。					
(10)質問、相談への対応及び連絡先	・オフィスアワーの実施場所: N313, 曜日, 時間（在室の時はいつでも）, 授業担当者の連絡先（研究室電話番号026-238-4218, メールアドレス：yasushi@shinshu-u.ac.jp）					
【教科書】	指定なし					
【参考文献】	『新しい時代の教育社会学』加野芳正・越智康詞編 ミネルヴァ書房 2400円					

【参考文献】	『よくわかる教育社会学』酒井朗他 ミネルヴァ書房 2012 2600円 『＜教育＞を社会学する』北澤毅編 学文社 2011 2400円 『マナーと作法の社会学』加野芳正編 東信堂 2014 2400円 『キーワード 現代の教育学』田中智志編 東京大学出版会 2009 2800円 『教育と社会』油布佐和子 学文社 2000円 『臨床経験の理論と実践』森下孟・青木一編 北大路書房 2023 3000円
--------	---